

令和4（2022）年度 登録コンクリート圧送基幹技能者認定試験
合格基準および総評について

令和4年10月31日

登録コンクリート圧送基幹技能者認定委員会

【合格基準】

択一式問題	25問, 50点満点
計算問題	4問（解答数計15題）, 30点満点
記述式問題	問題1（800字）, 13点満点
	問題2（400字）, 7点満点

- ① 択一式問題の得点数が60%(30点)以上
 - ② 計算問題の得点数が10点以上
 - ③ 記述式問題1の得点数が50%(6.5点)以上
 - ④ 記述式問題2の得点数が50%(3.5点)以上
- 以上①～④の得点数をすべて満たした者を合格とする。

申込者数：62名（うち、講習完了者数：43名、受験者数：55名）

合格者数：44名

合格率：71.0%（対申込者数）・・・参考：令和3年度の合格率は56.7%

【総評】

本年（令和4年）度は、登録コンクリート圧送基幹技能者認定講習を3年ぶりに「**対面開催**」といたしました（令和2年度は中止、令和3年度はWEB講習）。ただし、コロナ対策の一環で、自由研究の進め方の変更や、講師と受講者あるいは受講者同士のコミュニケーションに制限を余儀なくされ、コロナ以前の講習とは一部、異なった環境での開催方法となりました。今回の講習を有意義にそして安全に実施すべく、講師・事務局が一体となって工夫しながら運営に取り組んだ次第です。講習期間中に1名の受講者が発熱する事態が生じてしまいましたが、他への影響もなく、試験を含めた全日程を無事に終えることができました。皆様のご協力に感謝いたします

さて、今回の講習では、受講に先立ち、全員が事前課題に取り組み、試験対策を行ったうえで、ご参加いただきました。記述式問題に取り組んだ受講者数も10名に上り、その方々の記述試験の得点は良好なものでした。また、受講に先立って、昨年のWEB講習の内容（動画）を全圧連HPから閲覧できるようにいたしました。アンケート結果では、受講テキストや圧送マニュアルとともに受講前に予習した方が3割に達しており、『**自主的な事前学習**』が知識の蓄積と復習となって「合格」という結果に繋がっているように思います。

本年度の合格率は、例年よりも高い71%となりました（冒頭に記載）。試験の難易度や合否の判定基準は、例年と変わっていませんが、実際に試験を受けた人数（受験者数）に対す

る合格率も 80%と、高い水準になっています。講義の内容を理解し、試験に向けて十分な準備をされた方が多かったことは想像に難くありません。

一方、残念ながら不合格となった方々も、計算問題や記述式問題の得点が例年よりも高く、受講・学習の成果が見られました。ただし、一部の問題がよくできていても、別の問題ができておらず残念ながら、合格基準に達していない方もいます。資格認定には、すべての講習内容についての理解を必要としており、この点を踏まえて、再度のチャレンジを期待しています。

各試験問題の答案を分析した結果について、認定委員会の見解を以下にまとめましたので、今後の参考にしてください。

- ・択一式問題については、講義内容を理解できていることが確認できました。ただし、建設業を取り巻く情勢、会社経営、管内圧力損失の考え方、輸送管の選定にかかわる設問の正答率が低く、少々理解が足りないことが感じられました。
試験の可否に関わらず、講習テキストをよく復習し、再度のチャレンジに備えてください。

- ・計算問題については、圧送計画の実務に必要なものですが、理解がやや不十分な方が多いと感じました。特に、輸送管の仕様（肉厚）の選定にかかわる設問の正答率が低いのが特徴的でした。実務において安全な作業を行っていただくためにも、圧送作業で必要な計算知識の修得を心掛けてください。

なお、事前に過去の試験問題にチャレンジすることも重要です。得点の低かった方は、受験に向けた準備が足りないと感じられました。登録基幹技能者に必要な計算の知識は、講習を受けただけで習得できるものではありません。普段の実務をおさらいすること、過去の問題や今回の講習で配布された事前課題をしっかりと理解すること、で解ける試験問題です。これらに何度も取り組み、再度のチャレンジに備えてください。

また、これから登録基幹技能者を目指す皆さまにおかれましても、受験に向けて過去の問題や圧送マニュアルで継続的な学習に努め、自分が分からない箇所・質問したい箇所について事前に整理をした上で、講習に臨むようにしてください。

- ・記述式問題については、字数が到達しているものの、各設問（問題 1：閉塞の原因と対策、元請に対して取るべき行動、問題 2：労働者不足と外国人技能実習生について思うこと）において、問われている項目に対する記述がない答案がありました。知識と経験、現状の分析、基幹技能者としての想いと取るべき行動を文章に盛り込む必要があります。このほか、800字の問題 1 に時間を要してしまい、400字の問題 2 をきちんと書ききれなかった方（字数が足りない、途中で終わってしまっている）も見受けられました。
択一式問題が高い得点であっても、記述式問題が及第点に及ばず、残念ながら不合格となった方もいます。登録コンクリート圧送基幹技能者の業務においては、現場や元請への提案力が必要とされることから、認定試験では、ご自身の経験や考えを「文章にまとめる力」を判定しています。講習中に配布した文書の書き方の資料を参考に、過去に出題された問題で訓練を重ね、再度のチャレンジに備えてください。

また、これから登録コンクリート圧送基幹技能者を目指す皆さまにおかれても、事前に過去の試験問題にチャレンジして、受験に向けた答案練習をしっかりと積んでほしいと思います。

- 登録コンクリート圧送基幹技能者認定試験の合格者の皆様には、さらなる研鑽を積み、第一線での益々のご活躍を期待しています。残念ながら今回、不合格となった方々は次年度に再挑戦いただき、是非とも合格を勝ち取ってほしいと思います。追試験だけでなく、もう一度講習から受け直すことも合格への大きな近道ですので、どうかご一考をお願いいたします。